

丸山眞男と「伝統」思想

苅部直

この読書会は、二〇〇七（平成十九）年の三月に、三回（三月五日、十九日、二十六日。各日九十分）にわけて行なった。ねらいとしては、丸山眞男が研究対象としたテキストと、それについて丸山が解釈を展開したテキストとの双方を、参加者とともに読み、日本の「伝統」思想をいかに読んだかという切り口から、丸山の思想の特質を、探ろうとしたのである。

具体的には、北畠親房の『神皇正統記』（一三四三年初稿成立）と、それを論じた若き日の丸山による論文「神皇正統記に現はれたる政治観」（一九四二年、『丸山眞男集』第二巻に収録）との二つを、中心にすえた。

『神皇正統記』については、『日本古典文学大系』（岩波書店）の収録本文に基づいて、そこに述べられた思想の独自性を概観し、続いて、丸山の「神皇正統記」論文について、同時代の先行研究である、平泉澄・村岡典嗣・和辻哲郎による解釈との対比を試みた。村岡のテクス

トは、『日本思想史研究・第五巻・国民性の研究』（創文社）に収録された講義ノート「國體思想の淵源とその発展」（一九四〇年）、和辻については、『岩波講座・倫理学』第六冊（一九四一年）に発表された、全集未収録の論文「人倫的國家の理想とその伝統」を、配付資料に用いている。

この作業を通じて、丸山が『神皇正統記』から読みとった「政治」像を浮きばりにし、続いて、戦後の講演「政治的判断」（一九五八年、『丸山眞男集』第七巻所収）、および、「幕末における視座の変革——佐久間象山の場合」（一九六五年、『丸山眞男集』第九巻所収）を読んで、「政治的判断力」や、リアリズムの政治認識をめぐる丸山の議論への関連性を確認した。

読書会への参加については、人数を、会場である五十一号館の五一〇一室に収まる程度に限らせていただいたが、そのため、参加者と講師とがともに、テキストを読みながら考える、集中した雰囲気を保

てたように思う。毎回、熱心な質問が寄せられたのも、講師にとつてはとても有益であった。

今回は、迂闊にも開会前に思いつかなかったせいで、また、丸山眞男文庫の資料整理が進行中ということもあって、果たせなかった工夫であるが、丸山文庫にある書き入れ本や草稿を参照しながら、読書会をすすめていけば、より充実した内容の催しになったと思われる。

たとえば、丸山は『神皇正統記』をどういった校訂本で読んだのか。和辻や村岡の論文に、丸山はどんな書き込みをしているか。彼らの講義を聞いたときのノートはどうなっているか。丸山自身の論文や講演の草稿には、どういう推敲の跡が見られるか。そういった検討をまじめながらテキストを読んでいけば、丸山の思想が形をとって現われてくる現場に、ずっと身近に迫ることができただろう。この読書会の今後の運営にむけた、ささやかな感想である。

丸山眞男と「伝統」思想

講師：苅部 直氏

(東京大学大学院法学政治学研究科教授)

ねらい：丸山眞男が研究生活をはじめた1930年代は、「日本思想史」が、学問として確立されようとする時期でもあった。さまざまな「日本思想史」の構想が交錯するなかで、丸山がいかなる思想史を描こうとし、そこからどのような政治思想をひきだしたのか、探してみたい。

テキスト：丸山眞男「神皇正統記に現われたる政治観」（『丸山眞男集』第2巻所収）
丸山眞男「政治的判断」（同第7巻所収）
丸山眞男「幕末における視座の変革」（同第9巻所収）

日 程：第1回：2007年3月 5日（月） 午後2時～3時30分
第2回：2007年3月19日（月） 午後2時～3時30分
第3回：2007年3月26日（月） 午後2時～3時30分

場 所：東京女子大学 51号館1階・51101室

参加費：無料（テキストのコピーは主催者が用意します）

人 数：30人以内（申込み先着順・参加申込は参加申込票を郵送またはFAXでお送り下さい）

申込先：〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 東京女子大学 教育研究支援課
TEL: 03-5382-6454 / 月～金・9時～17時（11:25～12:25を除く）
FAX: 03-5382-6479

* 下記にご記入いただいた個人情報は、読書会の運営及び当センターの行事案内にのみ利用いたします。

-----キリトリ-----

Fax : 03-5382-6479

参加申込票

丸山眞男記念比較思想研究センター読書会「丸山眞男と「伝統」思想」に参加の申し込みをします。

ご氏名 _____

住 所 (〒 _____) _____

電 話 _____